

9月定例会の一般質問では、11名の議員が市長をはじめ市当局の考えを広く質問しました。

市政への質問

これからの市民生活を考える

いま、三田市の大きな課題である市民病院や市民生活に関する問題などについて、市長はどのように考えているのか。議員から質問がありました。

信頼される市民病院に向けて

問 閉鎖されている市民病院の人工透析室の再開に向けての考え方を伺いたい。

答 医師の招へいに向けて積極的に働きかける。人工透析室については、昨年3月に腎臓内科医師が大学に引き上げられ閉鎖せざるを得なくなった。以来、大学医局を訪問し、腎臓内科医師の派遣を依頼するほか、四国や関東の大学へも



▲看護について真剣な検討が続く（病棟スタッフステーション）

働きかけを行っている。特に、これまで腎臓内科医師を派遣していただいていた兵庫医科大学へは何度も訪問し、医師の派遣をお願いしている。今後とも、大学に対して、腎臓内科に限らず、他の診療部門の医師確保についても積極的に働きかける。なお、市民病院の人工透析の機器は、いつでも再開できるようにメンテナンスを行っている。

問 市民病院が行った「市民アンケート」結果から、病院としてまず何をしなければならぬと考えているのか。

答 市民病院の情報を正確に市民に広報すること

と。アンケート結果から、市民が病院を選ぶときの情報源として一番多いのが家族、知人からの口コミであった。また、重視する点として、医師の専門性が高いことや評判がよい病院であることがあげられており、病院として、正確な情報提供が重要だと再認識した。

こうしたことから、市民病院に関する情報を正しく市民に知っていただくために、市広報紙「伸びゆく三田」に病院情報の掲載を増やす一方、病院ホームページのリニューアルや広報ビデオをケーブルテレビで放映、また出前講座、当院医師による市民医療講座の開催など、積極的に広報活動を行っている。

また、今後、病院が取り組むべきサービスとして、外来待ち時間の短縮や検査予約待ちの改善に多くの要望があった。改善策の検討を院内の経営健全化チームを中心に進めるなど、市民の意向を病院運営に生かしていきたい。

問 市民は、公立病院として市民病院を存続することを望んでいる。市の考えはどうか。

答 市民病院は、公立病院としての役割と機能を堅持する。今回の市民アンケート

は、今後の市民病院の運営について広く市民の意見や提言をいただくとうと実施した。その結果、公立病院である市民病院が地域の中核病院として信頼され、大きな期待を受けていることを再認識することができた。市民の安心・安全を守るため、公立病院としての市民病院の役割と機能は堅持しなければならない。地域医療を取り巻く環境は厳しいが、医師を招へいし、安全で良い医療を市民に提供することが基本姿勢である。

特に、国の医療費抑制政策の中で、市民の医療を守るため、救急医療など不採算部門を持たなければならず、経営は大変厳しい。しかし、健全経営に向け、全力で取り組み、市民の理解と協力を得て市民病院を再生していきたい。

市民生活を考える

コミュニティバス導入

問 交通不便解消のためコミュニティバスを本格的に検討すべきと考えられているか。

答 導入形態を含め可能性を検討。

他の自治体のコミュニティバス運行の取組みでは住民自らが運行計画や運行にかかわる手法が増えている。本市では、今、導入形態の検討を進めているが、コミュニティバス事業の採算性や運行の持続性、利用者負担など課題の整理が必要である。

したがって、本市の置かれている現状をみて地域の主体的な住民の参画手法などを検討する。あわせて市内バス交通のあり方などについても十分検討し、コミュニティバス導入について具体化させていく必要がある。

原油高騰の影響は？

問 原油高騰による市内業者への影響調査と緊急支援を実施してはどうか。

答 緊急支援は国の制度で対応。

原油高騰による市内業者への影響は、一般貨物自動車運送業、土木工事業、建設業を中心に少なからずあると考えている。現在、国では中小企業対策として、中小企業向けの資金調達を円滑にするため、融資限度額の増額、貸付利率の引き下げ等を受けることができ、セーフティネット保証制度の拡充を行っている。セーフティネット保証

制度の中で、直接原油高騰を理由とした申請は本市で今年1件あり、認定している。また本市の今年4月から8月までのセーフティネット保証制度の申請件数は12件であった。

なお、影響調査については、原油高騰の直接的・間接的な影響を考えると、すべての市民、事業者が対象となり、一自治体で行うことは不可能である。また、緊急支援については、国規模で対策されているので、市独自の支援策は現在考えていない。

救急車の配備

問 高平・小野地区の災害・救急救助業務は、市内平均より大幅に時間を要している。市北東部の消防分署計画は急務と考えるが、今後の計画は。

答 平成21年度中に設置場所などを検討。

市北東部及び三輪北部地域に救急車が到着するまでの平均所要時間は10分35秒であり、市全体の平均に比べて約5分到着が遅れている。この状況を改善するため、市北東部と三輪北部地域を管轄する救急車を配備する施設について、21年度中に設置場所や職員体制などを整理し、地元とも十分協議して対処を考えていく。

質問議員

- 福山 三夫 (盟正会)
- 野上 和雄 (民主党)
- 松岡 信生 (公明党)
- 関本 秀一 (新風みらい)
- 家代岡 桂子 (市民クラブ21)
- 國永 紀子 (日本共産党)
- 坂本 三郎 (熱血市民クラブ)
- 今井 弘 (民主党)
- 城谷 恵治 (日本共産党)
- 平野 菅子 (公明党)
- 大月 勝 (清風会)

用語解説

コミュニティバス 明確な定義はありませんが、地域に密着して、住民の利便性の向上を主な目的としたバスで、バス停の間隔が短く、公共交通機関の空白地域を巡回するきめ細やかな運行などが典型的な特徴とされています。

セーフティネット保証制度

取引先企業の倒産や自然災害、取引金融機関の破綻などに伴い、経営に支障が出ている中小企業者が、中小企業雇用保険法の規定に基づき、資金供給の円滑化を図るために、市長の認定を受けることにより、信用保証協会が通常の保証限度額とは別枠で保証を行う国の制度です。

フードマイレージ

食べものの輸送距離のことです。さらに食べものの重さと輸送手段のCO2排出係数をかけることで、CO2排出量が計算できます。単位はtCO2e (ポコ) で表します。